

05-2 長野県民歯科口腔保健実態調査の試行調査による妥当性の検討

山賀孝之（松本歯科大学公衆衛生学講座）、西垣明子、小出明子（長野県健康福祉部）、
新津恒太（長野県歯科医師会）、定岡 直（松本歯科大学公衆衛生学講座）

キーワード：歯科疾患、口腔保健、疫学、実態調査

要旨：長野県では令和4年度県民歯科口腔保健実態調査を分散方式で実施する予定であり、今回、円滑実施のための基礎資料収集を目的として試行調査（以下、プレ調査）を行った。その結果、調査方法・調査項目については妥当であったが、より歯科口腔保健施策に活かせるデータとするためには、対象範囲の厳格な層化抽出が必要と考えられた。

A. 目的

長野県ではこれまで「県民歯科口腔保健実態調査（旧称：長野県歯科保健実態調査）」を6年毎に実施してきた。県民健康栄養調査と同時に集合形式での調査を行ってきたが、サンプル数が少ない等の課題があったため、令和4年度は初めて歯科診療所ベースの分散方式による調査（以下、本調査）を実施することを予定しており、本調査が円滑に実施されるための基礎資料収集を目的として、プレ調査を行った。

B. 方法

1. 調査対象：長野県内の20郡市歯科医師会（以降、郡市会）のうち、11郡市会に属する合計14歯科医療機関の受診者のうち、書面で同意が得られた159名
2. 調査時期：令和3年12月～令和4年1月
3. 調査方法：口腔内診査（歯の所見、補綴所見、歯周所見、その他）、質問紙票（①口腔内の自覚症状、②歯口清掃の頻度、③補助清掃器具使用の有無、④定期歯科検診受診の有無、⑤喫煙習慣、⑥既往歴）により得られた、連結不可能匿名化されたデータを用いた。統計解析はStata16（Stata Corp.、TX）を用い、有意水準を危険率5%とした。

C. 結果

159名のうち、本調査の対象年齢である15歳以上の男性60名、女性89名の計149名を分析対象とした。

年齢の平均値および中央値はそれぞれ男性が59.7歳および64歳、女性が57.1歳および58歳で、

男女間に統計学的有意差は認めなかった。一方で人数の割合にやや相違が認められたが、いずれも全ての年代に対して普く調査は実施された（図1）。

現在歯数、未処置齲蝕歯数、歯肉出血を認める歯数、中等度歯周炎（プロービング深さ4mm以上）歯数、重度歯周炎（同6mm以上）歯数の平均値および中央値を表1に示す。中等度歯周炎歯数のみ有意な性差が認められ、男性の方がより多かった。

現在歯数を年齢群別にみたところ、平均値は40歳代以降から加齢にともなう減少傾向が見られた（図2）。また、55～64歳の平均現在歯数は22.8本で、24歯以上のものは23名中20名（87.0%）、75～84歳の平均現在歯数は19.7本で、26名中無歯顎者は1名、20歯以上のもの（8026達成者）は16名（61.5%）であった。

また、年齢群別に歯肉出血のある歯、中等度歯周炎の歯、重度歯周周縁の歯をもつ者の割合を見ると、歯肉出血のある歯、中等度歯周炎の歯をもつ者の割合はいずれも30歳代以上では50%を超えていた。

歯科の定期検診受診状況や口腔内状況あるいは口腔衛生習慣との相互関係をみるため単純クロス集計を行い、その概観を表2にまとめた。まず、定期歯科検診を受けているものは、歯石沈着がない・少ないもの、歯を1日に2回以上磨くもの、フロスあるいは歯間ブラシを使用しているものの割合が有意に多かった。つぎに歯石沈着がない・少ないものは、歯みがきを1日2

回以上するもの、歯肉出血歯がないもの、中等度歯周炎歯がないもの、フロスあるいは歯間ブラシを使用しているものの割合が有意に多かった。その他、1日2回以上磨くものは中等度歯周炎歯がないもの、歯肉出血歯がないものは中等度歯周炎歯がないものの割合が有意に多かった。

D. 考察

実態調査の対象者は母集団のミニチュアであることが前提となる。図3に県民全体の年齢群別人数分布割合とプレ調査の対象者を重ねあわせたものを示したが、プレ調査の対象者は県全体と比較すると50歳未満の若年者が少なく50～70歳代の割合が多かった。今回は対象者の年齢を問わず各医療機関に調査を依頼したため、幅広い年齢層について調査を実施することができたが、長野県の歯科口腔保健施策を検討する基礎データとするためにも、本調査では、各郡市会の管轄する自治体の人口、年齢群・性別人口構成に基づいた厳格な層化抽出を実施することが必要である。

また、サンプル収集方法やサンプル数が限定的であり、口腔内診査や質問紙票の結果は過去の結果と一概に比較できないため、各項目の相互関連を比較して妥当性を検討したところ、既知の知識体系と比較しても大きな矛盾はなく、調査項目は妥当であった。プレ調査で明確な関連が見いだせなかった項目についても、十分なサンプル数となる本調査の結果に期待したい。

E. まとめ

令和4年度に実施予定の長野県民歯科口腔保健実態調査のプレ調査を実施した。調査方法や内容については問題となる点はなかったが、歯科口腔保健施策に活かすことのできる、より実態をとらえたデータとするためには、対象者の厳格な層化抽出が必要と考えられた。

F. 利益相反

利益相反なし。

(謝辞)

本プレ調査の実施にあたり、ご協力いただいた長野県歯科医師会地域保健部の先生方および診

療スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

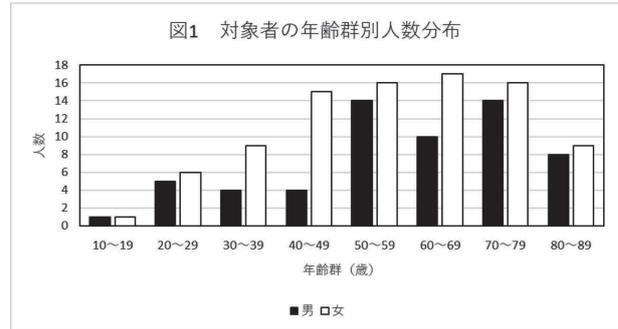


表1 歯と歯周組織の状況

現在歯数		未処置齲蝕歯数		歯肉出血歯数		中等度歯周炎		重度歯周炎		p値*
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
23.8	24.9	0.7	0.4	6.2	4.9	7.4	4.2	1.4	0.8	平均値
27	27	0	0	5	2	4	2	0	0	中央値
0.9922		0.0618		0.1169		0.0113		0.1764		

*U-test

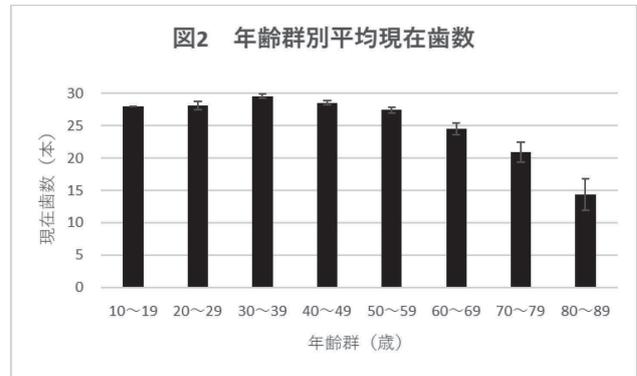


表2 各項目の相互関連

	定期検診受診	歯石沈着	歯みがき回数	歯肉出血	中等度歯周炎	補助清掃用具の使用
定期検診受診	-	-	-	-	-	-
歯石沈着	○	-	-	-	-	-
歯みがき回数	○	○	-	-	-	-
歯肉出血	○	○	○	-	-	-
中等度歯周炎あり	○	○	○	○	-	-
補助清掃用具の使用	○	○	-	-	-	-

○：統計的に有意 (p<0.05) な関連が認められたもの

